

令和7年度 泉が丘小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となれるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体をもち、これから社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。

- ・ 進んで学び、基礎・基本をしっかりと身につける子 (しっかり学ぶ 泉っ子)
- ・ 学びをもとに考え、問題解決ができる子 (よりよく生かす 泉っ子)
- ・ 自分の生き方を考え、誠実で思いやりがある子 (なかよく生きる 泉っ子)
- ・ 健康や安全に気をつけ、元気に生活できる子 (元気でがんばる 泉っ子)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が、みんなとともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- ・ 児童が夢と希望をもち、明るく活気に満ちた学校
- ・ 気持ちのよい環境で、温かい心の触れ合いにあふれ、仲間とともに仲よく学べる学校
- ・ 家庭・地域と連携した教育活動を推進し、信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）一人一人を大切にし、全人教育を目指す学校 【一人一人の児童を大切にしよう】

一人一人の児童について知・徳・体の調和のとれた成長を促すとともに、個人及び公民的資質の伸長を図り、教育目標の具現に努める。

（2）これからの社会を力強く生き抜くために必要となる資質・能力をしっかりと育成する学校

【日々の授業に力を尽くそう】

全ての教科領域で、「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を通じた質の高い教育の充実に努める。

（3）児童の思いを豊かにする学校 【子供が通いたくなる学校・学級をつくろう】

豊かな感性を育て、互いに高め合える学級集団の育成を推進し、いじめ・不登校・集団不適応等、児童指導上の課題解決に努める。

（4）創意ある「社会に開かれた教育課程」を編成・実施し、家庭・地域に信頼される学校

【地域や保護者と共に子供たちの未来を考えよう】

伝統ある校風を基盤に、児童・保護者・地域の実態や思いを共有し、創造的・計画的に連携を進めて、地域の信頼と要請に応え、公教育の使命を果たすように努める。小中一貫教育の推進にも積極的に取り組む。

（5）教職員が自ら学び生き生きと勤務する学校 【自ら学び生き生きと働く】

教職員としての自覚と使命感を持って、一人一人が絶えず研究と修養に努めるとともに、教師自身の生活の質を改善し、生き生きと勤務するようにする。

【泉が丘地域学校園教育ビジョン】

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成 ～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～
泉が丘中・今泉小・泉が丘小の3校が連携・一貫して「学び・共に行動し・鍛える」教育活動に取り組むことにより、3校共通の学校経営の重点である「児童生徒の人間関係構築力」の育成を図り、相互に関わり合いながら「共に学ぶこと」「共に行動すること」「共に生きること」について考えさせることにより、各校における教育課程実践の充実・深化を図る。

4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針、地域学校園の教育ビジョン、今年度の重点目標、今年度の努力点や具体策を踏まえ、全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るため、教科等横断的な視点に立って編成する。
- (2) 児童の学校生活の場として設定している、朝の活動、授業時間（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間＜泉の時間＞、特別活動）、休み時間（業間、昼休みを含む）、給食の時間、清掃の時間を基本的な枠組みとして教育課程を編成し、各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り、時数を確保する。
- (3) 年間的な枠組みとしての2学期制をもとに、教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連、及び効果的な教育活動の規模等について、計画的かつ重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的であり、教育活動全体として一貫性を確保しながら調和のとれた実施計画を作成することにより、学校教育目標の達成を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営 グローバル社会に向き合うとともに、郷土愛を醸成する教育の推進

- ① 学習指導の充実（学力向上）を図ることを最優先と位置づけ、新学習指導要領の趣旨を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善の推進を大きな柱として取り組む。
- ・「令和の日本型学校教育」構想のもとICTを活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業推進に取り組む。
- ② 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
- ・学校経営方針、具体策、本年度の重点目標への取組の様子等を今まで以上に保護者、地域に広く周知していく。新たな課題解決に向けた授業や学校行事等の取組を学校HPや学校だより、学年だより等で積極的に紹介し、保護者・地域住民の理解と協力を促す。
- ③ 泉が丘地域学校園の小中一貫教育、地域の教育資源の積極的な活用により「学校力」のさらなる向上を図る。
- ・地域の教育力を生かした教育活動（地域人材や教育資源の活用等）を積極的に展開し、「地域とともにある学校づくり」を着実に推進する。
- ④ 勤務時間を意識した働き方改革を推進し、校内の業務の適正化・明確化・効率化を図る。
- ・日常業務の精選や行事・日課の見直し、ICT活用による労力軽減を推進し、限られた時間の中で児童と向き合う時間を確保して適切な指導を行えるようにする。
 - ・働き方への教職員の意識改革を進め、自己の充実を図る。

（2）学習指導 確かな学力の育成

単元や題材のまとめを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- ① 教師が、児童に身に付けさせたい力を明確に認識しておくとともに、授業の目標（めあて・ねらい）を児童自身が確認できるようにし、学習計画をもとにした学習の見通しをはっきりもたせた上で、各教科等の「見方・考え方」を働きかせて課題にじっくり取り組めるよう、発問や学習活動を工夫する。
- ② 思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」等言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話合い」活動を充実させる。
- ③ 本時の目標や評価規準に基づいたまとめや振り返りを確実に行うことにより、児童に「何を学んだのか」を実感させるとともに、振り返りに対する具体的な言葉かけを行い、学習意欲や主体的に学習する態度等を養う。
- ④ 高学年での教科担任制を積極的に推進し、専門性の高い授業展開や効率的な授業研究を行う。

個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進

- ① 情報活用能力等の学習の基盤となる基礎的基本的な資質・能力等を土台とし、ICT機器を効果的に活用しながら、一人一人の興味・関心・能力に応じた学習活動や学習課題に取り組む学びを充実させるとともに、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら課題に取り組む態度を養う。

- ② プログラミング学習を生かした論理的な思考の育成を図るとともに、教科横断的な視点に立って現代的な課題の解決を図ろうとする学習活動を充実させる。
- ③ 一人一台端末の活用を通して、情報活用能力の定着を図るとともに、よりよい情報の使い手を目指すデジタルシティズンシップ教育を推進する。

（3）児童生徒指導 豊かな心を育む教育の推進

- ① 心の教育の充実により、自信や自己肯定感・自己有用感、規範意識、思いやり等を育成するとともに、これからの中学校において特に必要となる、多様な他者とともに協働しながら目標に向かって挑戦するたくましさ等を養う。
- ② いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に向けて、教職員が組織的に対応できる体制づくりを推進する。
- ③ 複雑化する問題へ対処するために家庭との協力はもとより、地域社会・関係機関とも連携を強化した取組の充実を図る。

（4）健康（保健安全・食育）・体力 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進

- ① 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成するために、自らの健康面や体力面のよさや課題を把握し、自分に応じた目標を設定し、健康（体力・保健・食・安全）について進んで活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ② 運動に親しもうとする態度や能力のより一層の育成を目指し、児童の発達段階や実態に応じた運動量を確保した授業（特に投力・持久力向上に向けた運動）、休み時間を利用した運動イベントの企画等の工夫（運動委員会主催等）により運動機会を創出することで、運動の日常化を図る。
- ③ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を定着させるとともに、感染症等の予防についても正しく理解させ、適切な行動をとることができるようとする等、健康で安全な生活を送れるよう指導する。
- ④ 安全教育・安全指導を充実し、危険に対して自らの身を守る行動がとれる児童の育成を目指す。

（5）特色ある学校づくり等に関する取組

①育てたい資質・能力

- ・ 基礎・基本をしっかりと身に付け進んで学ぼうとする態度を育成する。（しっかり学ぶ 泉っ子）
- ・ 学びを生かして考え、新たな課題解決に向かおうとする資質・能力を育成する。
(よりよく生かす 泉っ子)
- ・ 自分の生き方を考え、誰に対しても誠実に思いやりをもって接する態度を育成する。
(なかよく生きる 泉っ子)
- ・ 健康や安全に気を付け、進んで運動しようとする態度を育成する。 (元気でがんばる 泉っ子)

②具体的な取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

しっかり学ぶ

- ・ 家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指す。
- ◇ 学習センターとしての図書室機能の充実を図り、確かな情報収集・処理能力を育成する。

よりよく生かす

- ◇ ICT 機器の効果的な活用を推進し、課題解決能力の向上を図る。
- ◇ 職業人を招いたキャリア学習を通して、自らの生き方を考える機会を設ける。
- ◇ 小中連携活動を推進し、中学校への期待を高め目標を持たせる。

なかよく生きる

- ◇ 本に親しませ豊かな情操を育む。（読み聞かせ、ICC 文庫）
- ◇ 栽培活動を充実させ、体験活動や地域との交流体験を実施する。
- ・ 各学年の越戸川清掃活動を通じ、勤労・ボランティア精神の涵養を図るとともに、郷土愛を育む。
- ◇ 縦割り班活動を推進し、異学年交流を通して、リーダーシップやフォローアシップを育成する。
- ◇ 明るい挨拶が響き合う学校を目指し、あいさつ運動を推進する。

元気でがんばる

- ◇ 目的をもって運動に取り組み、運動に親しむ環境づくりを行う。
- ・ 健康チェックカード、検定カード、頑張りカード等を活用し、健康の保持増進と体力向上への意欲を高める。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考える等, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学習活動の中で、友達と考えを伝え合ったり、自分の考えを根拠をもつて説明したりする活動を取り入れることで、考えを深めたり広げたりできるような言語活動の充実を図る。 ②児童の実社会や実生活に関連した教材・教具を用いる等、児童の興味・関心を高める工夫をする。 ③1人1台端末や図書資料等から、必要な情報を収集し活用する学習活動を適宜設定し、進んで学習に取り組むことができる環境を整える。 ④発達段階に応じた自主学習を推進し、「家庭学習の手引き(泉が丘地域学校園版)」の活用による家庭学習の習慣化に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童(生徒)は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①道徳的価値を実生活の中から捉えられるような道徳科の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。 ②係活動や当番活動、縦割り班活動等、周囲のために活動する場を積極的に設定し、自己有用感を高める。 ③人権に関する標語等を作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができるよう配慮し、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。 ②児童が自己肯定感を高められるよう、係活動や委員会活動等で活躍できる機会を工夫して設けていくとともに、各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛する機会を積極的に設ける。 ③学校や学年のホームページで授業や学校行事等で粘り強く取り組んでいる様子を紹介する。		【達成状況】 【次年度の方針】

1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①保健委員会からの呼び掛けや生活習慣チェック等を通して、児童が自分の健康状態を意識し、生活習慣（食事・運動・歯磨き・姿勢・スマートフォンやタブレット、ゲーム機の使い方等）を見直していくようにする。</p> <p>②交通安全、生活安全、災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を通して指導し、自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けさせる。</p> <p>③学習内容に合わせて栄養教諭や家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成と食事マナーの定着を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①日々の活動について、キャリアパスポートで設定しためあてに沿って振り返る時間を設け、記録を蓄積し、自分自身のよさや成長を実感できるように努める。</p> <p>②係活動や当番活動等、周囲のために活動する場を積極的に設け、称賛することで自己有用感を高める。</p> <p>③縦割り班活動や児童会活動等の充実を図り、異年齢集団と関わる場を通して、上学年から学んだり下学年の支えになったりするよさを実感できるよう支援する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①英語でのやり取りを中心とした授業を展開および授業以外の時間も活用して児童が英語に慣れ親しむ機会が多くなるようにする。</p> <p>②ALTを多くの場面で活用し、外国語科・外国語活動の授業改善の工夫や生きた英語に触れる機会の充実を図る。</p> <p>③本校として大切にしている『Smile, EyeContact, ClearVoice, Response』の4点を意識した児童のやりとりや発表を全体に共有して称賛したり、児童が達成感や満足感を味わえる声掛けをしたりすることで、言語活動の充実を図り、進んで英語を使おうとする態度を養う。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①社会科・総合的な学習の時間における「宇都宮学」の充実を図り、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。</p> <p>②各教科・領域と宇都宮学とを関連付け、児童が宇都宮の良さを実感できるように、学年に応じて指導する。</p> <p>③宇都宮産の食材を使った給食を栄養教諭により紹介することで、地域の良さに気付かせ、郷土への関心を高める。</p> <p>④道徳科の授業において、「道徳科地域教材」を活用し、郷土愛について考える時間を設ける。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①教職員が ICT 機器の特性を知り、授業で効果的に活用できるよう、校内研修等で技能向上を図る。(新しい機能やツール、児童用デジタル教科書の活用等)</p> <p>②GIGA スクール構想における 1 人 1 台端末の活用について、児童が端末に慣れ親しみ、学校や家庭で適切に活用することができるよう、授業において計画的に指導する。</p> <p>③各教科及び各種年間指導計画に図書館の利用を適切に位置付けるとともに、司書と連携を図り、学習に活用するための図書資料を計画的に準備し、学習環境を整える。</p> <p>④学年に応じて情報モラル・デジタルシティズンシップの指導も行い、1 人 1 台端末等を正しく活用できるように指導する。</p> <p>⑤ICT 機器を活用した児童の活動の様子を、学校 HP や各種だより等で積極的に発信していく。</p>		<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、『持続可能な社会』に ついて、関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①授業での該当単元において、SDGs との関連を図りながら身の回りの課題を探究的に解決していくことにより、地域や社会に目を向け、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p> <p>②広報・福祉 JRC・掲示委員会の児童が各委員会の取組と SDGs につながる活動を紹介したり、掲示を工夫したりする等、全校生への周知・啓発を図る。</p> <p>③環境問題やエネルギー問題等から、節電や節水、リサイクル等に取り組む習慣を身に付けさせ、「持続可能な社会」につながることを指導していく。</p>		<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒職員の肯定的回答 95%</p>	<p>①特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて、全職員で共通理解を図り、迅速かつ組織的な対応にあたる。</p> <p>②特別支援学級に限らず、通常の学級においても特別な支援を必要とする児童について、個別の指導計画を作成し、全職員で共有し計画に基づいた支援を行う。</p> <p>③特別支援コーディネーターや担任との連携のもと、かがやきルームの効果的活用を図るとともに、少人数指導等、個に応じた指導の充実に努める。</p>		<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>

3-（2） いじめ・不登校対策の充実	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることとを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒保護者の肯定的回 85%以上</p>	<p>①いじめは絶対に許されないという考え方のもと、教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘 小いじめ防止基本方針」に基づき共通理解を図り組織的に指導にあたる。</p> <p>②いじめアンケート、教育相談を通して、いじめの早期発見に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的に関わることにより、確実な解消を目指す。</p> <p>③児童会が主体となって、呼びかけや「いじめゼロ運動」を展開し、一人一人がいじめに対する正しい判断力や行動力を持つことができるようにする。</p> <p>④人権に関する標語等を作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。（A2 再掲）</p> <p>⑤児童指導だよりを年に数回発行し、いじめを防止する取組について保護者に向けて知らせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」⇒保護者の肯定的回 90%以上</p>	<p>①道徳科の授業や学校生活全体を通じて、心の教育の充実を図る。</p> <p>②児童が自己肯定感や自己有用感を高められるよう、帰りの会等で互いのよさや努力を認め合う機会を設けるとともに、係活動や委員会活動で児童一人一人が活躍できる場の設定を工夫する。</p> <p>③Q－U等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、どの児童にとっても自分の居場所となるような温かな雰囲気の学級経営に努める。</p> <p>⑤ スクールカウンセラーの周知を継続的に行い、教育相談体制やケース会議の充実を図るとともに、常時、適時に児童の様子を共有し、児童の心のケアを行う等、学校全体で迅速に対応する。</p> <p>⑥ 児童指導だよりや学年だよりを通して児童ひとりひとりのよさを認め育てる取組について保護者に向けて知らせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
3-（3） 外国人児童生徒等への適応支援の充実	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童（生徒）の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」⇒保護者の肯定的回 90%以上</p>	<p>①学校行事や縦割り班活動に、児童の願いや思いを反映させ、意欲的に参加できるようにする。</p> <p>②児童が、互いの国籍や文化の違い等を認め合い尊重しながら生活できる態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
3-（4） 多様な教育的ニーズへの対応の強化		<p>③学校生活アンケートやQ－U、年間2回の教育相談を実施し、児童の悩みに寄り添いながら問題の早期発見・解決に努め、保護者と情報を共有できるようにするとともに、よりよい学級経営に努める。</p> <p>⑦児童が一人一人のよさを発揮し、自己肯定感を高められるよう、授業や帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。</p>	

4-（1） 教職員の資質・能力の向上	<p>A 14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫する等、きめ細かな指導をしている。」⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①本時のめあて（育成を目指す資質・能力）を明確にし、児童と共有することで各教科等における見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びを実現し、「分かる授業」の実践に努める。振り返りでは、本時の学びを文章で書く活動を充実させ、児童自身が自分の学びを振り返るとともに、教師は児童の記述の内容から次時の授業づくりにつなげる等、授業改善に努める。</p> <p>②発達段階に応じた個別最適な学びと協働的な学びの機会を設けることにより、基礎・基本を確実に習得させ、あらゆる場面で活用できる力を育成する。また、1人1台端末を有効に活用する。</p> <p>③学年内で授業研究を行い、研究成果を教職員が伝え合うことで、学校全体の指導力向上を図っていく。また、成果や課題について相互に意見を交換し、理解し合う機会を繰り返し設けていく。</p>	<p>【達成状況】 【次年度の方針】</p>
4-（2） チーム力の向上	<p>A 15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学校経営計画（グランドデザイン）を基に、担当する校務分掌において、個々の専門性を生かしながら質の向上を目指すとともに、連携・協力をさらに深め業務の円滑化に努めていく。</p> <p>②事務職員・司書・栄養教諭・養護教諭・助教諭・少人数指導・専科教員・かがやきルーム担当、サテライト教室担当、スクールカウンセラー等と連携を密にした教育環境整備や児童支援を行う。</p> <p>③報告・連絡・相談を徹底し、早期的な問題の把握と組織的な対応に努める。</p>	<p>【達成状況】 【次年度の方針】</p>
4-（3） 学校における働き方改革の推進	<p>A 16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①現在の日課を継続し、放課後の時間を有効に活用する。また、日直業務の精選、リフレッシュデーの設定等により、業務の効率化に努める。</p> <p>②ミライムや学習情報システム、さくら連絡網等のネットワークソフトウェアを活用し、ペーパーレス化等に取り組み、事務に費やす時間の短縮化を図っていく。</p> <p>③教職員で業務改善に向けた意見を出し合い、具体的に改善に取り組むとともに、教職員一人一人のさらなる意識改革を目指す。</p>	<p>【達成状況】 【次年度の方針】</p>
5-（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	<p>A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①地域学校園内の小中学校と連携し、各部会・分科会で協働しながら小中一貫のカリキュラムの取組の充実を図る。</p> <p>②一人配置職員の連携を密にし、持続可能な校務運営と教育活動を計画・実践していく。</p> <p>③小中合同清掃や乗り入れ授業、宮っ子チャレンジの受入れ、合同あいさつ運動、特別支援学級交流会等、地域学校園が連携して行っている教育活動について学校HPや各種たより等を通じて積極的に情報発信し、「小中一貫教育」の取り組みへの理解を高めていく。</p>	<p>【達成状況】 【次年度の方針】 【達成状況】</p>

5-（2） 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進	A 18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	<p>①地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら、地域との連携をさらに高めていく。</p> <p>②読み聞かせボランティア、ICC文庫ボランティアによる読書活動や学校支援ボランティアによる教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。</p> <p>②学習のねらいに則した出前授業を積極的に活用し、企業と連携を図りながら教育活動を充実させる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
5-（3） 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。(校内の施設、設備、駐車場等)」⇒地域の肯定的回答 85%以上	<p>①校内の施設、設備及び校庭の遊具等について定期的な安全点検を徹底し、危険個所については迅速な対応に努める。</p> <p>④危機管理マニュアルを全職員で確認し、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、事前事後指導を丁寧に行い、不測の事態への対応に備える。</p> <p>⑤年度に応じて掲示等の校内環境を整備し、利用する人それぞれが自発的に安全に気を付けられるよう配慮する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
6-（1） 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A 20 コンピュータ等のデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業(授業準備を含む)や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」 ※デジタル・・・一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツール等⇒教職員の肯定的回答 85%以上	<p>①教室に実物投影機等を配備したり、有効な物品を教職員で共有したりして、デジタル機器が常に使いやすい状態になっているよう、学習環境を整える。</p> <p>③1人1台端末の管理を適切に行い、効果的な教材を共有することで、学習活動が円滑に行えるよう取り組む。端末使用の約束については児童と保護者に定期的に周知し、正しい使い方を身に付けさせる。</p> <p>④ICT支援員と連携し、児童が授業等において、1人1台端末を効果的に活用できるように支援し、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力を育成する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じた挨拶をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、時と場に応じた挨拶をしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上 「児童(生徒)は、時と場に応じた挨拶をしている。」⇒地域の肯定的回答 85%以上	<p>①児童が主体となって取り組む挨拶運動等についてHPや各種たより、回観板等も活用して積極的に発信し、挨拶の啓発を行う。</p> <p>②児童会活動を通して、挨拶の仕方や大切さを伝え、児童が自ら挨拶できるようなきっかけづくりを行う。また、学級活動や道徳科等の授業を通して、発達段階に応じ、挨拶の意義や心的効果について指導し、校内及び地域の方々への自発的な挨拶の啓発に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>

<p>B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①生活目標を「泉が丘小学校の一日」と関連付けて提示し、日々振り返ることで、秩序ある充実した学校生活を送ることができるようとする。</p> <p>②生活当番による児童の実態に合わせた「生活目標」の焦点化と、目標達成に向けた指導を行うとともに、帰りの会等で振り返りを行い、達成状況を確認する。</p> <p>③決まりやマナーを守った行動に対し、児童が互いに認め合う機会や教職員の称賛によって意識付けながら自己指導能力の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】 【次年度の方針】</p>
<p>B 3 児童は、進んで運動する習慣を身に付けています。</p> <p>【数値目標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後等に積極的に運動している。」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童が扱いやすい体育用具等を整備し、児童の運動への興味・関心を高める。</p> <p>②保健領域と関連付け、健康の保持増進のために、自己の健康に関心をもたせるとともに、運動に親しませ、外遊びを奨励する。</p> <p>③体育科の授業での課題選択できる場の設定、児童が自ら運動参加することに繋がる授業展開、運動委員会主催による企画の実施等、児童が進んで運動できる機会を創出する。</p> <p>④新体力テストの結果を活用した授業の補強運動などに取り組むことを通して、基礎体力や運動技能の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 【次年度の方針】</p>
<p>B 4 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校だよりや学校公開等で、積極的に情報を発信・提供している。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①さくら連絡網による連絡事項の速やかな伝達、学校HPによる学校や学年での児童の活動の様子の伝達と、2つのツールを有効活用しながら情報の発信を工夫していく。</p> <p>②授業参観やオープンスクールを実施し、学校での教育の様子を保護者・地域に公開し、地域と共にある学校を目指す。</p> <p>③地域協議会や民児協関係者との情報交換会で、授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら、地域との連携をさらに高めていく。</p> <p>(A18 再掲)</p>	<p>【達成状況】 【次年度の方針】</p>

<p>B 5 学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用し、豊かな教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート</p> <p>「学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用しながら、豊かな教育活動を推進している。」⇒保護者の肯定的回答回答 85%以上</p>	<p>①児童の実態や発達段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や人材、資料等を活用し、地域のよさについて理解させる。</p> <p>②生活科・総合的な学習の時間の学習活動や花壇・農園整備等において、地域や保護者から構成される学校支援ボランティアを積極的に活用しながら、教育効果を高めていく。</p> <p>③読み聞かせボランティア、ICC文庫ボランティアによる読書活動や学校支援ボランティアによる教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。</p> <p>(A 18 再掲)</p>	<p>【達成状況】</p> <p>【次年度の方針】</p>
---	---	-------------------------------

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。